

II. 研究活動

センターでは、昨年度より、文部科学省の特別研究経費で「地域における『国際理解教育』の指導理念及び推進方法に関する研究」を行っている。計画は、平成 21 年度までの 3 年間である。

本事業は、小学校英語、開発教育、異文化理解、多文化共生教育などさまざまな概念を含んだ「国際理解教育」の、地域における取組みの実態を明らかにして共通の土台作りを行うとともに、教員研修プログラムや教材の開発を行って、学校教育現場や地域における「国際理解教育」の実践を促すものである。

本年度は最終年度にあたる。これについて以下の 3 つの事業主体を中心に説明する。

1. 地域における国際理解教育団体のネットワーク化と情報発信

県内の国際理解教育のリソース団体からなる「宮城国際理解教育推進連絡会議」は、本センターが主催し、(独)国際協力機構東北支部及び(財)仙台国際交流協会の共催で、宮城県内における国際理解教育への理解・実践の普及を図るため、県内の国際理解教育に関わる機関(並びに教員組織)が集り、意見交換並びに有用な情報交換を行うことを目的に開催している会議。参加者機関は、宮城教育大学、岩沼市教育委員会、宮城県高等学校国際教育研究会、(独)国際協力機構東北支部、(財)仙台国際交流協会、宮城県国際理解教育研究会、みやぎ開発教育ネットワーク、(財)宮城県国際交流協会、(特活)国際ボランティアセンター山形の計 9 団体。

本年度は規約や団体の整備から、情報発信へと活動の重点を移した。定期的に連絡会議を開催したほか、ホームページを開設した。また 1 月 18 日に、「国際理解教育の学校訪問プログラム 合同報告会 2009」を開催した。

2. 国際的ネットワーク(ユネスコ・スクール)への参加

2.1. ユネスコ・スクール加盟支援

本年度は、気仙沼、白石市、岩沼市、仙台市、栗原市、丸森町、の 38 の小中高等学校がユネスコ・スクール・ネットワークに加盟が決定した。また、加盟申請への支援を継続している。地域のユネスコ・スクールへの貢献としてこうした動きをうけて、11 月には「ユネスコ・スクール・ネットワーク会議」を開催した。

2.2. 地域の学校のユネスコ、スクール活動支援

ESD への理解の促進と、ユネスコ・スクールのコンテンツ作り、および地域のユネスコ・スクールの情報交換の場として、「2009 年度・春季ユネスコ・スクール・ネットワーク研修会」、「気仙沼 ESD/ユネスコ・スクール研修会～県内の現状と宮城教育大学の連携～」 「宮城教育大学グリーンウェイブ活動」、「気仙沼 ESD/RCE 推進会議 2009～子どもと地域の未来

を拓く円卓会議 2009～」、「『みやぎ教育月間』記念講演・文化遺産実践発表会 笑いあり、歌あり世界文化遺産出前～！高座」、「持続発展教育研修会—県内ユネスコ・スクール研修会 in 白石」、「日韓 ESD フォーラム／ユネスコ・スクール東北地域フォーラム in 気仙沼」を順次開催した。

2.3. 全国のユネスコ・スクール活動支援

本学のユネスコ・スクール支援は、全国におけるユネスコ・スクール活動普及のもでることとなった。文部科学省のユネスコ・パートナーシップ事業経費を獲得し、以下の研修会が各地で展開され、国際理解教育研究センターはそれぞれの活動に協力した。

- ・ 11月21日（北海道教育大学釧路校）「ユネスコスクール・フォーラム in 釧路」
 - ・ 12月19日（玉川大学）ESDセミナー in TAMAGAWA University
 - ・ 12月23日（奈良教育大学）平成21年度世界遺産学習全国プレサミット、ASPUnivNet 関西ESD学習会（ワークショップ）
 - ・ 12月25日「ユネスコスクール・フォーラム in 岡山」（仮称・日程未定）
 - ・ 12月26日～28日（日）（東京・国際交流館）ダブルネット・ワークショップ
- このうち、ダブルネット・ワークショップは、本センターが全面的に活動を推進した。

3. 地域における新たな国際交流モデルの提示

特別教育研究経費では、2007年より、岩沼市と連携した新たな国際交流モデルを模索してきた。宮城県とデラウェア州の姉妹州関係、岩沼市とドーバー市との姉妹都市関係、宮城教育大学と岩沼市との連携協定をもとに、本年度は、本学とドーバーにあるウェスレー大学との連携協定が締結され、岩沼市、ドーバー市と宮城教育大学との3者協定による国際交流モデルが完成した。4つの中学校と、ドーバー市の4つの中学校の連携同時に締結された。

4. 教員研修・学生研修

小学校の5・6年次において必修化される英語活動の現状を踏まえて、県内各地域に呼びかけて参加者をつのり、協定校のCQ(セントラル・クィーンズランド)大学で教員研修を行った。内容は、①CQUランゲージセンターにおいて英語力のブラッシュ・アップ。②CQUにおいて外国語習得や外国語指導に関する基礎的な理論を学ぶ。③オーストラリアの学校を訪問し、現地の教育（外国語教育を含む）について理解を深める。④ホームステイを通してオーストラリアの社会や文化に親しむ、研修を開催した。

学生に対しては、オーストラリアにおいて「海外総合演習」（2月15日～3月1日、「インターンシップ事業」（2月16日～3月17日）を実施した。これにより、小学校英語活動・国際理解教育の研修事業を2年間継続して実施したことになる。

5. プロジェクト研究

プロジェクト研究として、各教員の専門に合わせて「国際理解教育としての小・中・高等学校における社会科教科の授業設計」「異文化理解教育の基礎研究：英語教育学、英語学、社会言語学の観点から」「海外の教育機関におけるインターンシップ・プログラムの開発と実施／国際的な視野を持つ学生を育てる学内プロジェクトの推進」「アジア環境理解教材の開発」のテーマ別研究を行った。研究成果は本年報、論文を参照されたい。

